

## Pathology International 誌について

### Pathology International 誌 (PIN) の歴史

日本病理学会は1911年に設立されました。学会の歴史の中で、PINの前身となる学会機関誌 *Acta Pathologica Japonica* は1951年に創刊されました。創刊から2011年までの雑誌の発展の経緯は学会の100周年記念誌に詳しく掲載されています(文献1)。その一部を紹介しますと、「創刊号には、東京大学の岡治道総務幹事の緒言が掲載されており、その最後は"We can hope for no more if our researchers are of any value to other. May this journal develop for ever more"と記されており、雑誌への当時の方々の思いが込められている。」とあります。創刊時は年4回の季刊誌で年27編の論文が掲載されましたが、1974年からは隔月発行となり、1986年からは月刊誌となり現在に続いています。

創刊時は瀧澤延次郎編集長のもと4名のManaging Editorと21名の刊行委員 Editorial Board でスタートしました。瀧澤編集長は印刷会社の選定に悩んだようですが、最終的に長年 *Tohoku Journal of Experimental Medicine* を手掛けてきた実績から仙台の笹氣印刷に依頼しました。1957年からは三宅仁編集長に引き継がれ、1964年には太田邦夫編集長のもと *Medline* に掲載されるようになり、一段と国際的に認識されるようになりました。1982年からの6年間はManaging Editorは置かれず石川榮世編集長が直接実務を行いました。1987年からは下里幸雄編集長のもと20名の常任刊行委員 Associate Editor (AE) と100名を超える Editorial Board が専任されて、査読システムが強化されました。2名の査読委員が審査し、AEが総合的に判定し、EICが最終的に採否を決定するという現在のシステムの原型です。1994年4月には *Pathology International* に改名。2000年には向井清編集長が分野別の査読システムを導入してより専門性の高い査読が行われるようになりました。この間の経緯は、森茂郎編集長が下里編集長時代の常任刊行委員会の梁山泊的な雰囲気や、神山隆一刊行委員が編集のご苦労を100周年記念誌に書いています(文献2,3)。また高橋雅英編集長は同誌に日中交流に果たしたPINの役割に触れています(文献4)。坂元亨宇前編集長は副編集長制度を導入してさらに緻密で柔軟性の高い舵取りの仕組みを構築しました。尚、雑誌の制作会社は1993年からはBlackwell社が担当するようになり、2009年からは現在のWiley社へと名称が変わりました。

### Pathology International 誌の現状と展望

2019年、投稿論文数は310編(国内148編、海外162編)、採択数は93編(総説12編、原著35編、症例報告31編、レター14編、短報1編)で採択率は33%です。採択率の内訳は、原著論文は35%、症例報告は31%と大きな差はありませんが、国内は61%、海外は10%と大幅に国内が高い状況です。判定時間は全投稿論文に対して初回までは中央値で23日、最終判定までは39日です。採択論文に限れば所要日数は85日で前年より20日間短縮されています。現在、病理学会の宿題報告(病理学賞)、病理診断特別講演(病理診断学賞)、A演説(学術研究賞)、B演説(症例研究賞)はinvited reviewとなっています。

編集体制は、編集長1名、副編集長3名、常任刊行委員35名、刊行委員175名で、海外ゲスト advisory board が12名です。PINの査読システムは堅牢で専門性の高いシステムが稼働しています。先人の叡智により築かれたものです。学会としては、刊行委員会、常任刊行委員会が設置されており、副編集長会議が行われています。PINの出版業務に関してはWiley社の東京の担当者が的確な印刷・出版マネジメントを行っており、査読システム運用実務はWiley社のメルボルンオフィスで迅速な対応が行われています。現在PINは会員にはOn-lineで提供されています。PINにアクセス可能な学術研究機関は国内181を含む7,509機関でヨーロッパを中心に増加しています。PINのダウンロード数も伸びており2019年には約4,000件増えて年間14,000ダウンロードを超えています。その上位は日本

23%、米国 19%、中国 16%で、以下アジア、欧米各国でダウンロードされています。また High citation Winners はトップ 5 位までを病理学会のホームページ上で発表しています。尚、冊子体は年間 8,000 円で購読可能で、表紙の色は毎年変わります。

病理学は裾野の広い学問です。病理診断も AI 画像診断、NGS が生み出す膨大なゲノムデータなど様々な最先端の技術とともに発展しています。PIN はトピックスや最新の研究成果の掲載はもちろんのこと、形態に基づく地に足がついた病理学研究の成果、日常診療の中で会員が出会った貴重な症例を大切にしていきたいと思ひます。79 年間多くの先輩が築いてきた PIN は会員が誇れる機関誌に成長しています。会員の皆様には研究成果や貴重症例のご投稿をお願いしたいと思ひます。

2020 年 9 月 1 日 日本病理学会

### 文献

1. 石川栄世、向井清. 「日本病理学会英文機関誌-Acta Pathologica Japonica と Pathology International-」 日本病理学会 100 周年記念誌 109-113, 2011.
2. 森茂郎. 「下里編集長時代」 日本病理学会 100 周年記念誌 114-115, 2011.
3. 神山隆一. 「Pathology International の思い出」 本病理学会 100 周年記念誌 118, 2011.
4. 高橋雅英. 「日中交流と Pathology International」 日本病理学会 100 周年記念誌 116-117, 2011.

### Pathology International 歴代編集長

カッコ内は在任期間。初代から 4 代は Acta Pathologica Japonica 編集長。



初代 瀧澤 延次郎  
(千葉大学)  
1951-1956



2代 三宅 仁  
(東京大学)  
1957-1963



3代 太田 邦夫  
(東京大学)  
1964-1967



4代 石川 榮世  
(東京慈恵会  
医科大学)  
1968-1986



5代 下里 幸雄  
(国立がんセンター)  
1986-1995



6代 森 茂郎  
(東京大学)  
1995-2000



7代 向井 清  
(東京医科大学)  
2000-2006



8代 高橋 雅英  
(名古屋大学)  
2006-2012



9代 坂元 亨宇  
(慶應義塾大学)  
2012-2020

### インパクトファクターの推移 (1997~2018 年)

